

平成30年度
観光統計調査報告書
(平成29年1月～12月)

一迫花山商工会

観光統計調査報告書について

1. 調査分析資料

宮城県 観光統計概要 平成29年（1月～12月）

2. 資料について

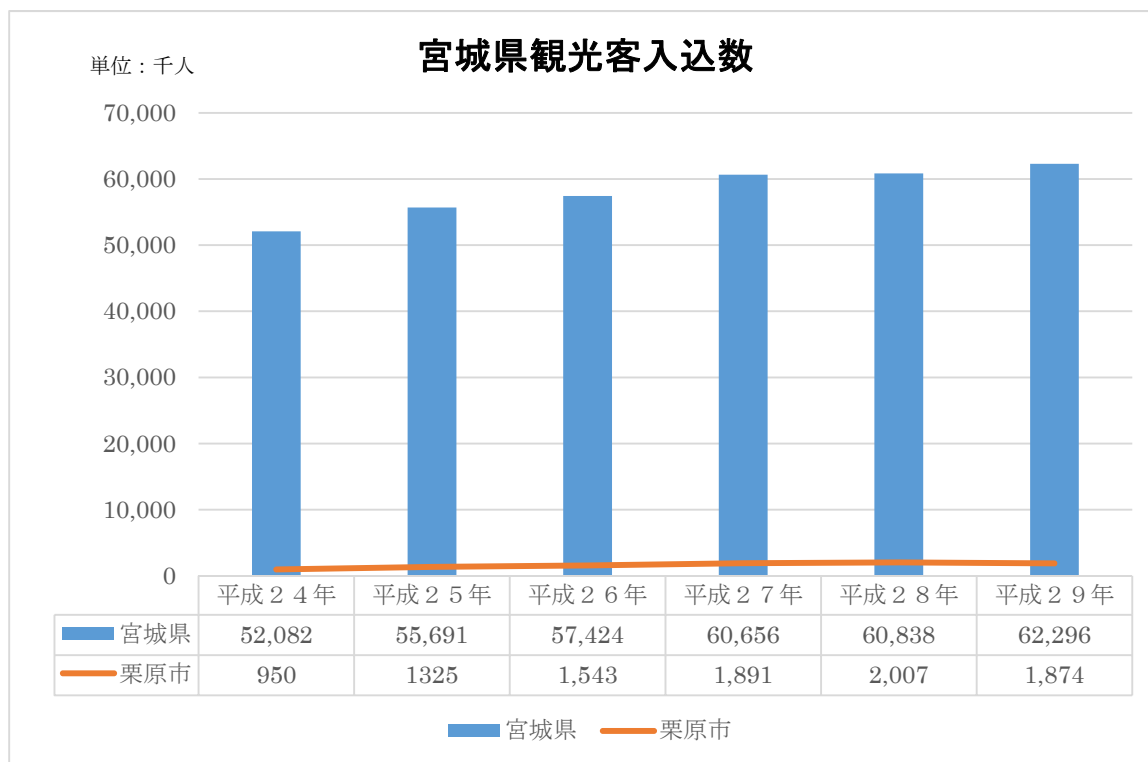
（1）県内の圏域は仙南・仙台・大崎・栗原・登米・石巻・気仙沼の7地区です。

（2）観光客入込数、宿泊観光客数は延べ人数です。

（1人が観光地点を2箇所訪れた場合や、2泊した場合は2人となります）

(1) 観光客入込数

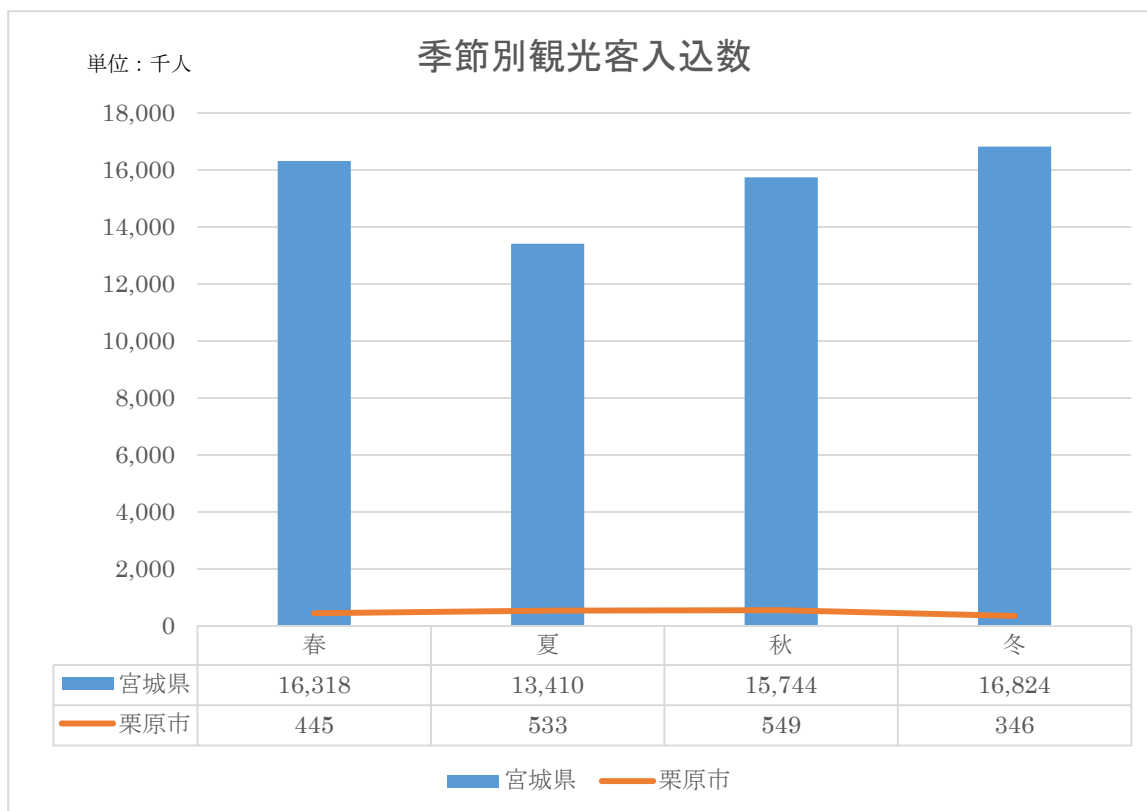
①宮城県観光客入込数



宮城県全体の観光客入込数は年々増加傾向で推移しており、平成22年に61,286千人を記録したが、平成23年に発生した東日本大震災の影響で平成23年の観光客入込数は大幅に落ち込む結果となった。しかし翌24年からは着実に増加していき、平成27年以降の観光客入込数は震災前の平成22年と同水準まで回復、平成29年は震災前の観光客入込数を上回っている。

栗原市の観光客入込数は平成19年に1,910千人であったが、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震により大幅に落ち込んだ。しかし、栗駒山麓ジオパークが認定されたほか、栗原市の観光客入込数増加戦略等により、平成28年の入込数は市の目標観光客入込数の2,000千人を超えている。平成29年の入込数は前年比△133千人の1,874千人となっており、震災前と同水準となっている。

②季節別観光客入込数



宮城県の季節別観光客入込数は前年と比べ、通年で増加した。増加数は春季+948千人、夏季+52千人、秋季+192千人、冬季+266千人と春季が特に増加した。

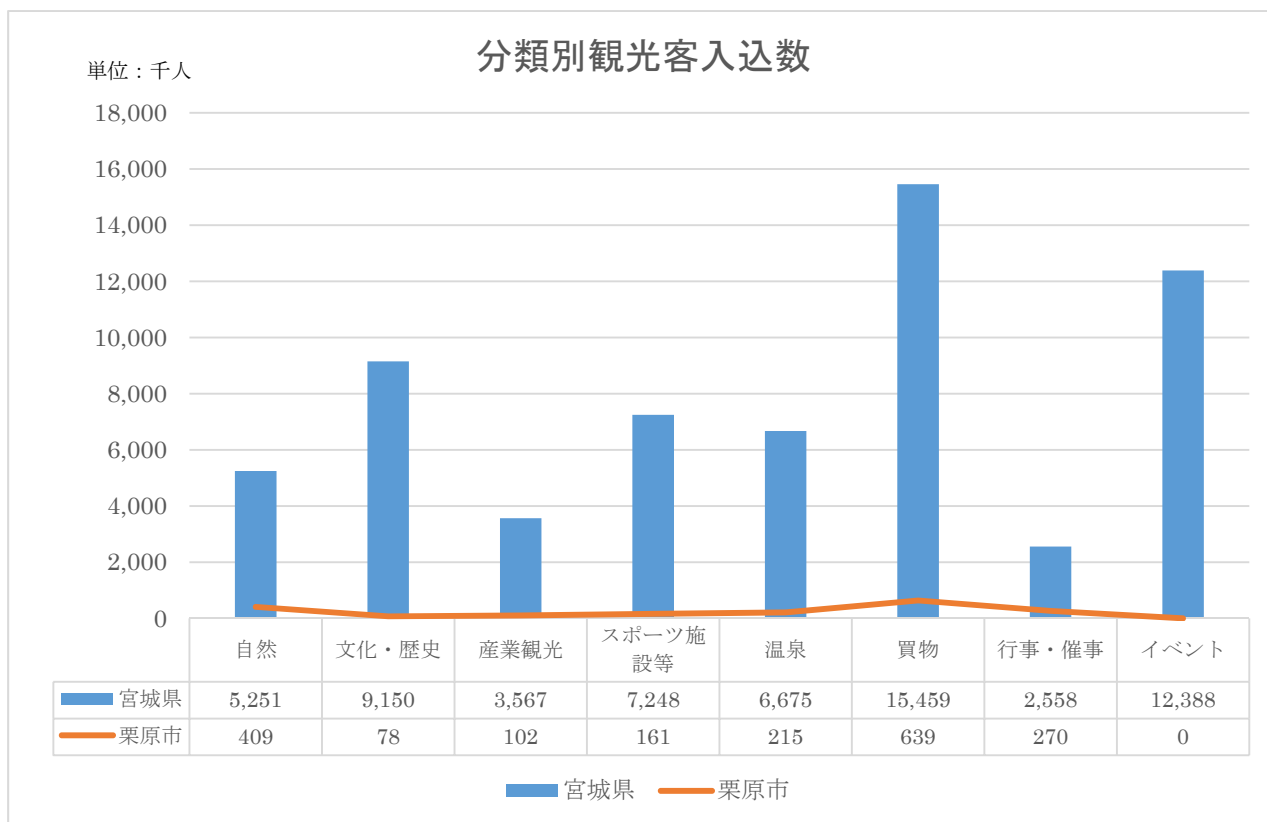
平成29年の夏季は天候不順により増加の伸びが低いと考えられる。

栗原市の季節別観光客入込数は前年と比べ、春季のみ増加した。増減数は春季+5千人、夏季△65千人、秋季△69千人、冬季△3千人と夏季と秋季で大きく減少している。

年間入込数を割合で見ると春季は23.7% (+1.8)、夏季は28.4% (△1.4)、秋季は29.3% (△1.5)、冬季は18.5% (+1.1) となっている。

宮城県各地区では通年の中で冬季の入込数が落ちる傾向にあるが、特に栗原市の冬季観光客入込数は落ち込む結果となっている。

③分類別観光客入込数



宮城県の分類別観光客入込数は、前年同様「買物」が最も多く 15,459 千人の入込があり、前年比+702 千人と大きく増加した。増加要因としては主に沿岸部の商業施設の再建等と考えられる。

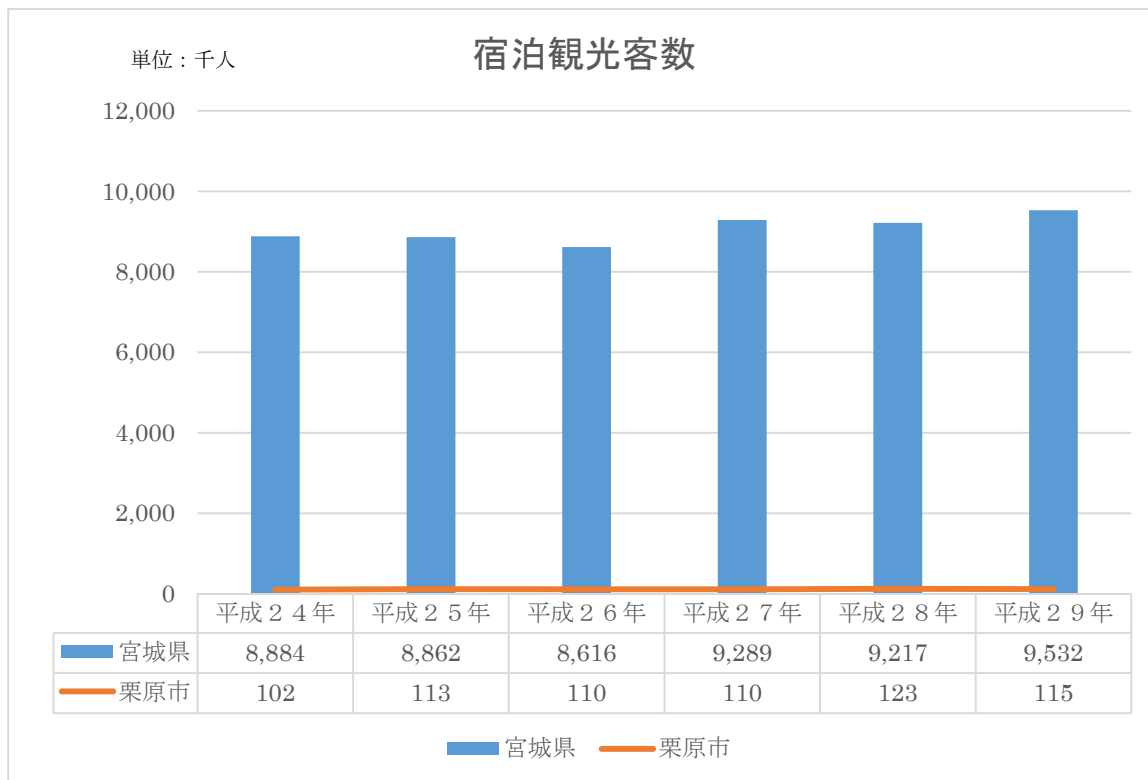
次いで「イベント」が 12,388 千人で前年比+8,302 千人と大きく増加、「文化・歴史」が 9,150 千人でこちらも前年比+298 千人と増加した。

前年に対して「文化・歴史」、「温泉」、「買物」、「イベント」の項目で観光客入込数が増加した。

栗原市の分類別観光客入込数は宮城県と同様に「買物」が最も多く 639 千人の入込があったが、前年比△43 千人と減少している。

次いで「自然」が 409 千人で前年比△38 千人、「行事・催事」は 270 千人でこちらも前年比△44 千人と減少している。前年同様、上位 3 項目で栗原市の観光客入込数の 70%以上を占めている。また、「産業観光」、「温泉」は前年の観光客入込数より増加となった。

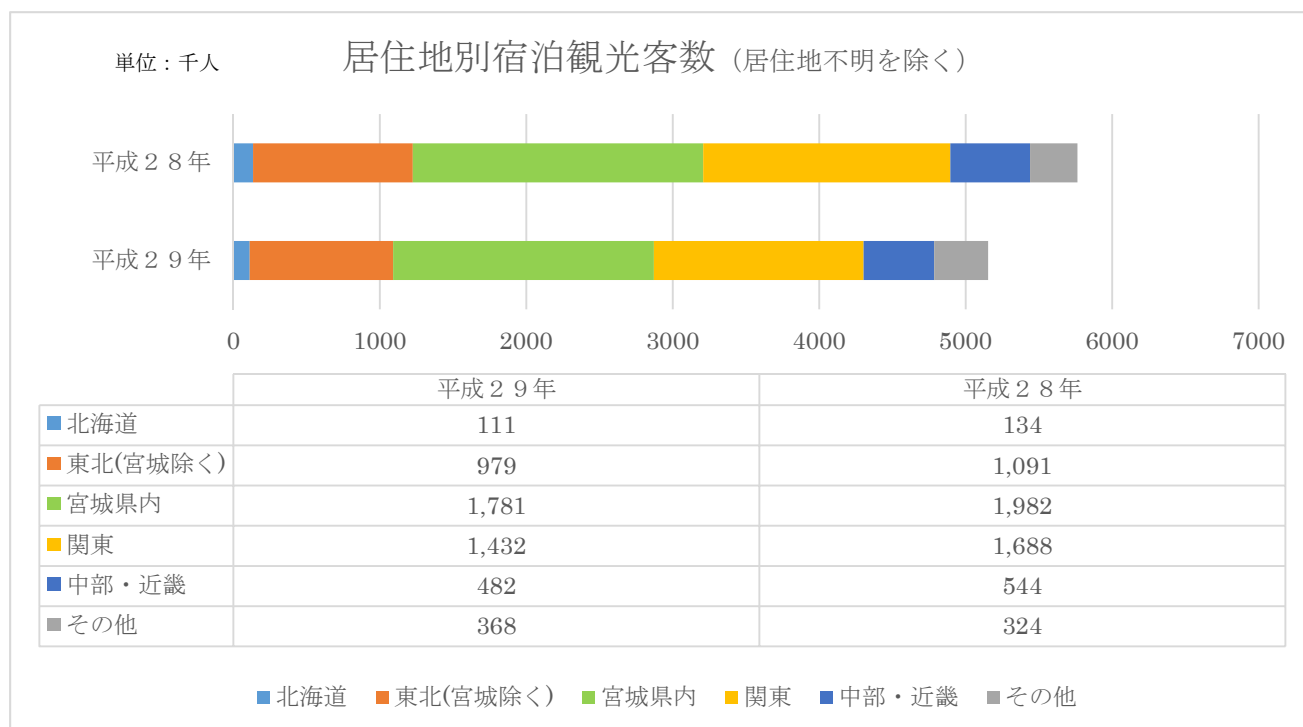
④宿泊観光客数



宮城県の宿泊観光客数は東日本大震災の復興需要もあり増加傾向が続いていたが、復興需要が落ち着いてきた平成25年から減少傾向へ転じている。その後、平成27年は大型コンサート、「観光王国みやぎ旅行割引」等の影響から大きく増加し、続く平成28年は僅かに減少したが、平成29年は前年比+315千人と増加に転じ、過去最高を更新した。

栗原市は観光客の入込が期待できる8月から9月が長雨の影響等により、前年比△8千人の115千人であった。

⑤居住地別宿泊観光客数

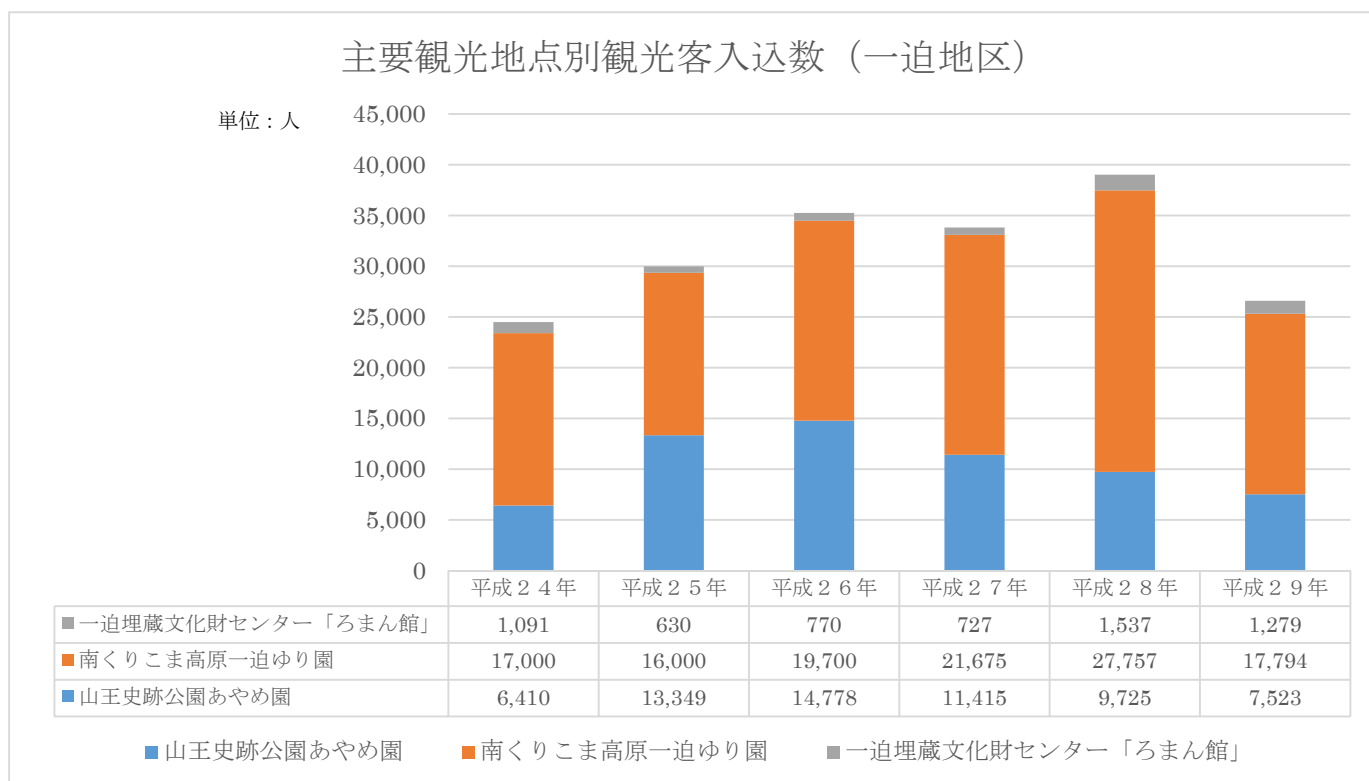


居住地別宿泊観光客数は前年同様、「宮城県内」、「関東」、「東北（宮城除く）」の順に客数が多く、上記3地域の合計で全体の8割以上を占めている。

前年に対し「宮城県内」は前年比△201千人、「関東」は前年比△256千人、「東北（宮城除く）」は前年比△112千人となっている。

⑥主要観光地点別観光客入込数

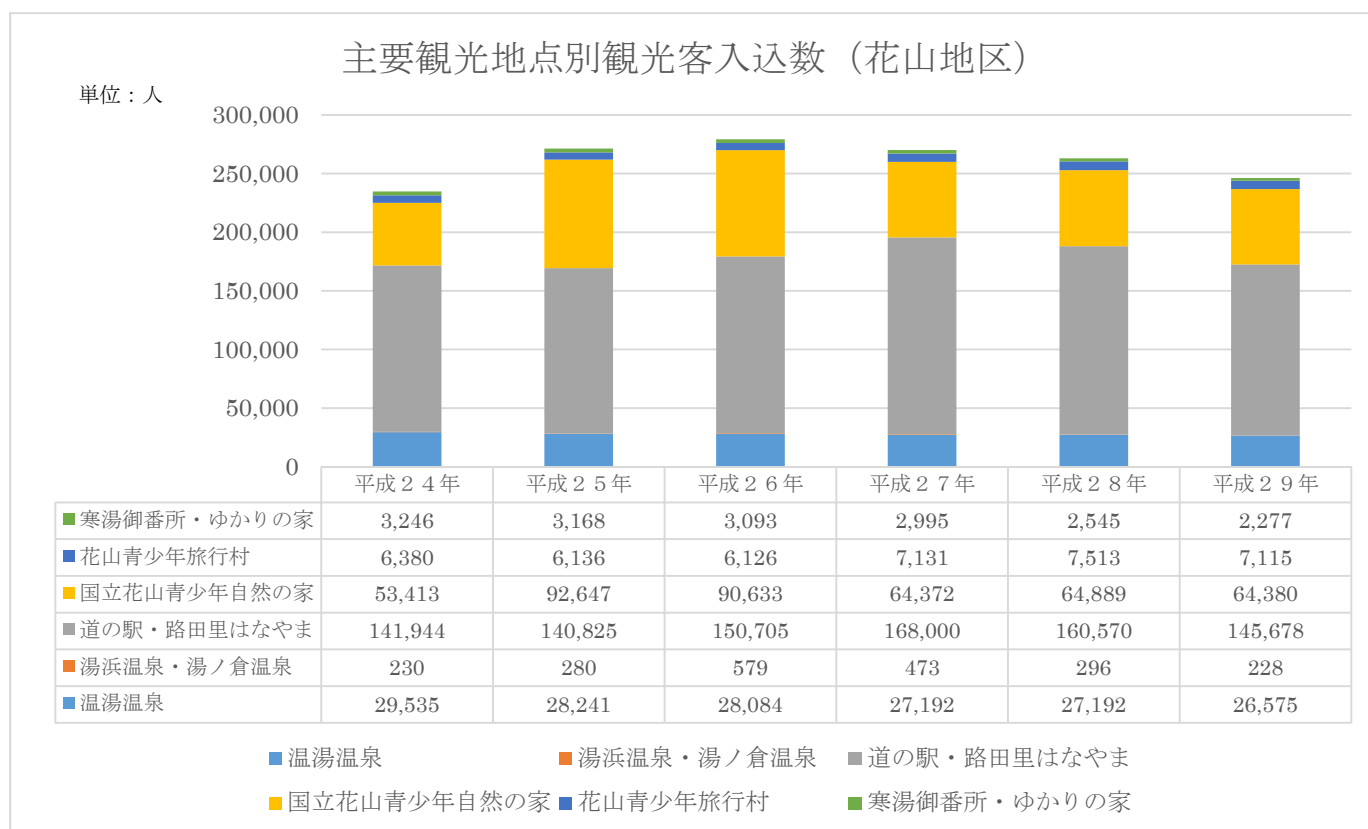
【一迫地区】



一迫地区の平成29年の主要観光地点別観光客入込数は「一迫埋蔵文化財センターろまん館」、「南くりこま高原一迫ゆり園」、「山王史跡公園あやめ園」の3地点合計で26,596人（前年比△12,423人）であり、全ての地点において平成28年の観光客入込数より減少した。

詳細としては、「一迫埋蔵文化財センターろまん館」の観光客入込数は1,279人で前年比△258人、「南くりこま高原一迫ゆり園」は17,794人で前年比△9,963人、「山王史跡公園あやめ園」は7,523人で前年比△2,202人となっている。

【花山地区】



花山地区の主要観光地点別観光客入込数は合計で 246,253 人（前年比△16,752 人）と減少が続いている。

最も観光客入込数が多い地点は前年同様「道の駅・路田里はなやま」で 145,678 人（前年比△14,892 人）、次いで「国立花山青少年自然の家」が 64,380 人（前年比△509 人）、「温湯温泉」が 26,575 人（前年比△617 人）、「花山青少年旅行村」が 7,115 人（前年比△398 人）、「寒湯御番所・ゆかりの家」が 2,277 人（前年比△268 人）、「湯浜温泉・湯ノ倉温泉」が 228 人（前年比△68 人）となっており、全ての地点において前年の観光客入込数より減少している。

【栗原市全域】

①平成29年度栗原市全域主要観光地点別観光客入込数（上位5地点）

	観光地点	H29年入込数	対前年増減数
1	栗駒山・イワカガミ平	151,410人	△17,250人
2	道の駅・路田里はなやま	145,678人	△14,892人
3	金成温泉金成延年閣	111,518人	△3,400人
4	国立花山青少年自然の家	64,380人	△509人
5	栗原市細倉マインパーク	56,230人	△22,079人

栗原市の主要観光地点別観光客入込数は730,135人で前年比△64,066人であり、その内一迫地区は3.6%（前年比△1.3%）、花山地区は33.7%（前年比+8%）を占めている。

栗原市内主要観光地点において、前年に対して観光客入込数が増加した主要観光地点は「ハイルザーム栗駒」の33,931人（前年比+22,640）のみとなっている。

平成29年は8月から9月の長雨の影響により観光客入込数が伸び悩む年となった。

栗原市の観光客入込数が減少した中、市内の観光において花山地区が占める割合は増加したものの、年々観光客入込数が減少しており、今後は、一迫・花山両地区の魅力を活かし、更なる誘客拡大に向けた取り組みを行っていくことが必要である。